

林原美術館

NEWS

Vol. 7

平成16年4月1日

林原美術館 開館四十周年を迎えて

(財)林原美術館 理事 熊倉功夫

今年は林原美術館が創設されて四十年の節目を迎えます。節目にあたつて、これからどんなことが考えられるか、いろいろ模索してみたいと思います。

林原美術館はひとつくちでいえば、一地方都市の小美術館といえるでしょう。

しかし規模は小さくとも、収蔵される美術品の質と量は目をみはるものがあります。備前の大藩池田家の所蔵品を中心とするコレクションは、岡山という地域に密着しながら、世界的に評価される普遍的な美を具現するものといえましょう。つまり林原美術館は、時代と地域を越えて伝えてゆくべき美と工芸の宝庫なのです。けつして一地方都市の小美術館にとどまるべきではなく、ここを拠点にして世界に向けて何が発信できるかを考えるべきではないでしょうか。

この秋には「第二回林原国際芸術祭・希望の星」の一環として、特別展「手でふれるアート」が予定されています。昨年の「みずのきの絵画」に続く、障害をもつ人々による芸術活動の展示です。こうした美術や工芸を通じて人ととの輪をひろげ、あらたなネットワークをうみだす仕事も、美術館活動として新しい展望をひらくことになります。

美術館に期待されることもたくさんあります。



林原美術館 長屋門

賜りたく存じます。
意見とさらなるご後援を

展覧会スケジュール一覧

- 企画展 「能装束の世界」**
4月4日(日)～5月9日(日)〈36日間〉
- 特別企画展 「大名池田家の名宝」第一部 祝いの行事**
5月16日(日)～6月20日(日)〈36日間〉
- 特別企画展 「大名池田家の名宝」第二部 日常の楽しみ**
6月27日(日)～8月1日(日)〈36日間〉
- 特別展 「京の雅—洛中洛外の世界—」**
9月5日(日)～10月3日(日)〈29日間〉
- 特別展 第二回林原国際芸術祭「希望の星」
「手でふれるアート」(仮称)**
10月10日(日)～10月31日(日)〈22日間〉
- 企画展 「刀剣の美と心」**
11月7日(日)～12月12日(日)〈36日間〉
- 企画展 「瑞祥」**
平成17年1月4日(火)～2月13日(日)〈41日間〉
- 企画展 「陶磁器の美」**
2月20日(日)～3月27日(日)〈36日間〉

んありますが、課題も少なくあります。

せん。

今までの多くの美術館がとつてきた「お宝をみせてやる」式の姿勢に疑問が呈される昨今です。これからは見に来られた方へ、どのように正確に、親切に、展示内容を伝えるかが大きなテーマになるでしょう。そのためには館員自身の意識変革も必要となりますし、施設もそれに向けてあらためる必要がでてくるでしょう。より見やすく、より楽しく鑑賞するために何をどのよう改善していくか、という課題です。

派手な記念展ではなく、美術館のハーデ面とソフト面のリニューアルを真剣に考えることこそ、まさに創立四十周年にふさわしいテーマだと思います。

どうか皆様の様々なご意見とご意見とさらなるご後援を

イベント予定一覧

◆第一回ワークショップ 「紅花染め」

4月17日(土)・18日(日)【12時30分～16時】

◆第二回ワークショップ 「銘切り」「小刀製作」

11月7日(日)・13日(土)・14日(日)

◆第四回 美術館周遊の旅 「滋賀・京都 美術館巡り」

6月5日(土)～6日(日)【泊二日】

◆第三十七回 林原美術館美術講座 演題「近世の武家文化 —池田光政を中心に—」

7月10日(土)【13時30分～15時】

講師 熊倉功夫氏(当館理事)

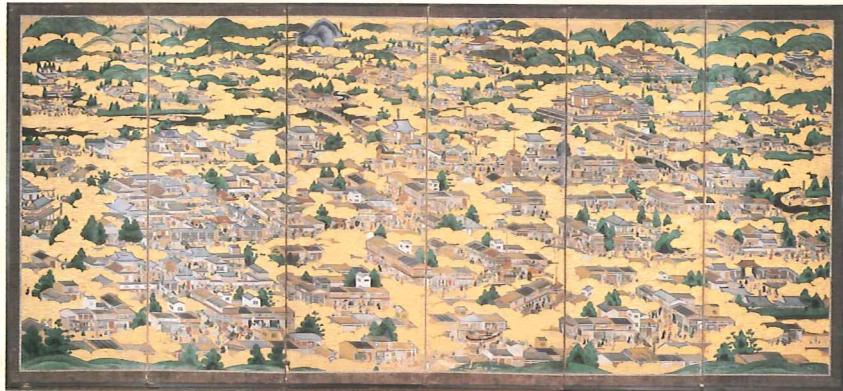
演題「陶磁器と日本文化」

3月5日(土)【13時30分～15時】

講師 熊倉功夫氏(当館理事)

特別講演会「京の雅—洛中洛外の世界—」に因んだ、特別講演会を予定しております。各イベントの詳細は別途案内いたします。あることを参加下さい。

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS



重要文化財 洛中洛外図屏風(右隻)

今回の特別展では、京の都を描いた「洛中洛外図」を中心に展示します。桃山・江戸時代に多く描かれましたこれらの絵を通して、当時の京の雅を紹介します。

昨年、当館所蔵の重要文化財「洛中洛外図屏風」が平成十三年からの二年間の修復を終えて戻ってきました。今回の特別展では、本屏風を修復後初めて

林原国際芸術祭・希望の星は、障害をもちながらも、芸術の分野で世界的な活躍をしている人たちの活動を通して、世界の人々の心を結び、喜びを共有する活動として、昨年から始められました。第一回目があたる今年は、視覚に障害をもつ人の美術活動について紹介いたします。

露目します。修復によつて金箔の剥落や汚損が修理され、裏紙や屏風の大縁の布などを新調して仕立て直されました。ぜひこの機会に本屏風の修復後の姿をご覧下さい。

「目の色が変わるふくろう」 宮崎佳代子 1984年

千葉盲学校の子どもたちの作品をはじめ、海外の視覚障害の人たちの作品も展示する予定です。

今回は、

全国の盲学校で、美術が行われるようになったのが戦後のことですから、もう五十九年の月日が経ったことになります。この間、視覚障害の人たちが美術に取り組むことにより、触覚と美術の問題が浮かびあがつてきました。これは、目の不自由な人たちだけの問題ではなく、人間にとつて誰でも大切なことであることもわかつてきました。

いのが現状です。

は、全盲の美術作家として美術界で活躍している人も出てきましたが、まだまだ一般的には知られていないで



「目の色が変わるふくろう」 宮崎佳代子 1984年

千葉盲学校の子どもたちの作品をはじめ、海外の視覚障害の人たちの作品も展示する予定です。

全国の盲学校で、美術が行われるようになつたのが戦後のことですから、もう五十九年の月日が経つたことになります。この間、視覚障害の人たちが美術に取り組むことにより、触覚と美術の問題が浮かびあがつきました。これは、目の不自由な人たちだけの問題ではなく、人間にとって誰でも大切なことであることもわかつきました。

「刀剣の美と心」

11月7日(日)～12月12日(日)

刀剣には研ぎ澄まされた美しさがあります。用と
美を兼ね備えた究極の姿である刀剣を鑑賞していただき、その心に触れていただきたいと思います。さら
に、幕末から明治という時代の転換期を生きた金丁家たちの作品もあわせて展示します。また、この展覧会に因んだワークショップも開催する予定です。



能装束 段に枝垂桜と扇文様唐織

まいりました所蔵品
整理作業の成果として
能・狂言道具の中から
役柄を表す「冠物」、
桃や貝等の小道具で
ある「作り物」を初出
品いたします。

特別展

「京の雅——洛中洛外の世界——」

9月5日(日)～10月3日(日)

特別展

第二回 林原国際芸術祭「希望の星」 「手でふれるアート」(仮称)

10月10日(日)～10月31日(日)

「能装束の世界」

4月4日(日)～5月9日(日)

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS



重要文化財 洛中洛外図屏風(左隻)

の所蔵品だけでなく、他の「洛中洛外図」をご覧頂くことで、時代によって変化する洛中洛外の風景を楽しんでいただきたいと思います。また、中国の都の風景を描いた当館所蔵の重要文化財「清明上河図」も合わせて展示しますので、いろいろな点から描かれた都の風景を日本・中華人民共和国と比べながら見ていただくこともできると思います。「洛中洛外図」の細かく丁寧に描かれた建物や人々の様子から、それぞれの時代の京の都の雅な雰囲気を感じてみてください。

特別企画展

「大名池田家の名宝」

「池田家の名宝」と題しまして一回に分けて特別企画展を開催します。当館所蔵品の中でも極めて大きな割合を占める池田家伝来品ですが、皆様のお目にかけていないものまだまだあります。「池田家といえればコレ!」というくらい今では定番になつたものから、「これも池田家のもの?」と思われるものまで、様々なものを展示する予定にしてます。「再発見! 池田家展」をどうぞお楽しみ下さい。



輪蝶紋陣幕

第一部 祝いの行事

5月16日(日)～6月20日(日)

第一部では、大名池田家伝来の名宝の中から、具足祝いやお雑祭のようなお祝い事まで、祝いの行事にスポットをあてて展示をします。また、藩主夫人ご愛用の人形関係も初出品する予定です。

第二部 日常の楽しみ

6月27日(日)～8月1日(日)

平成17年2月20日(日)～3月27日(日)

企画展

「陶磁器の美」

当館は日本の鍋島焼をはじめとして、唐三彩に代表される中国陶磁、美しい羽色の高麗青磁を中心とする朝鮮陶磁といった東アジアの多様な陶磁器を所蔵しています。三国の陶磁器を比較鑑賞するとともに、陶磁器を通して日本、中国、朝鮮の歴史や文化の違いをお楽しみいただければと思います。



青磁象嵌蓮菊花文水注・承盤

企画展

「瑞祥」

平成17年1月4日(火)～2月13日(日)

一日日にちが変わるだけでおめでたい気分になる、縁起物を身に付けるだけで良いことが起こるような気がする、これは今も昔も同じです。この良き風習を、新春のめでたきもの展「瑞祥展」でしっかりと味わって下さい。また、今回は特別に、国の重要文化財に指定されている「綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度」の中から、貝合わせ七二枚全てを初展示します。その豪華絢爛な様に是非ご期待下さい。



重要文化財 綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度の内 彩色貝

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

ワークショップの開催について

従来の「見て知る」ことから「自ら体験すること」によって、より美術館に親しんでいただくために、「伝統工芸探訪の旅」をリニューアルし、展覧会に因んだ「ワークショップ」を開催することにいたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

第一回ワークショップ「紅花染め」

企画展「能装束の世界」に因んで、桃山時代の染めの再現「紅花染め」を体験します。染織史家・吉岡幸雄先生のご指導のもと、古代から口紅などとしても使用されてきた「紅」をあなたの手で染めてみませんか。

日 時 平成16年4月17日(土)・18日(日)

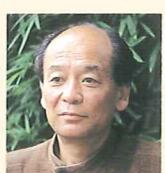
12時30分～16時

場 所 林原美術館 館内庭

講 師 吉岡幸雄氏(染織史家)

定 員 各15名(要予約)

参加費 実費(3千円)



吉岡幸雄氏

第二回ワークショップ「銘切り」「小刀製作」

企画展「刀剣の美と心」に因んで、大野義光・高野行光両刀匠のご指導のもと、文鎮への「銘切り」と「小刀製作」を体験します。(昼食は各自お持ちいただくか、お弁当(1,500円)をお申し込み下さい。)

「銘切り」(子ども対象)

日 時 平成16年11月7日(日)

10時～16時

定 員 15名(要予約)

参加費 無料

*銘を入れた文鎮(一人一本)をお持ち帰りいただけます。

「小刀製作」(大人対象)

日 時 平成16年11月13日(土)・14日(日)

10時～18時

定 員 各5名(要予約)

参加費 2万円

*実際に小刀作りに挑戦します。
なお後日、実費(1万5千円程度)にて研ぎ・鞘付でお渡しすることも出来ます。



銘切り風景

第四回美術館周遊の旅「滋賀・京都美術館巡り」

6月5日(土)～6日(日)(一泊二日)



MIHO MUSEUM 外観

第三十七回 林原美術館美術講座

講師／熊倉功夫氏(当館理事) 定員／各70名
会場／岡山県立美術館 講義室

演題「近世の武家文化－池田光政を中心に－」

7月10日(土)13時30分～15時

後編集

第7号の『林原美術館ニュース』をお届けいたします。今年度は特別展2

回、特別企画展2回、企画展4回の、計8回の展覧会を予定しています。

また、恒例の美術館周遊の旅、美術講座に加え、実際に体験していただくことを主眼においた、ワークショップも開催いたしますので、ご期待ください。たくさんの方々のご来館をお待ちしております。(A)

3月5日(土)13時30分～15時

陶磁器を日本人はこよなく愛してきました。ことに茶の湯の世界は陶磁器を除いては考えられません。また茶の湯が陶磁器の发展をうながした面も大きいでしょう。こうした陶磁器の文化を論じます。

財団法人 林原美術館

〒700-0823 岡山市丸の内二一七一五

TEL ○八六一二三一七三三

●「友の会」募集のご案内●

林原美術館では、平成十六年度の美術館「友の会」の会員を募集しています。会員の方には、美術館の企画展が会員証にて無料でご観覧いただけ、ご同伴の方名様も無料となります。また、特別展では入館料が300円引きとなります。このほかにも、館が主催する各種イベントに会員料金にてご参加いただけ、館内で販売する図録、オリジナルグッズが割引価格でご購入いただけます。さらに会員の方々には、展覧会やイベントなどの情報をいち早くお届けします。この機会に是非ご入会ください。